



Rainbow letter

2023.11

No. 37

日本周産期メンタルヘルス学会・ニュースレター

学術集会 開催報告

大会長・竹内崇（東京医科歯科大学病院）

おかげさまで、第19回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会を無事開催することができました。開催約1か月前の事前参加登録者数が、前回同時期の半数に満たなかったことで、現地での開催には今なお臨床現場から離れることの難しさがあることが何われ、急遽オンデマンド配信についてあらためて広報し、最終的には1200名近くの方に参加登録をしていただくことができました。また現地には約450名の方にお越しいただきました。

各種講演、シンポジウム、セミナー、ワークショップなど、いずれのプログラムも充実した内容で大変好評でした。中でも、特別講演については非常に多くの感動の声をいただきました。鷺山拓男先生（とよたまこころの診療所所長）の「子どもの虐待予防と妊娠期・周産期からの妊産婦支援」では、周産期から必要な虐待予防に対する具体的な考え方について詳しく解説していただきました。野沢慎司先生（明治学院大学社会学部教授）の「ステップファミリー支援と新しい家族観—子どもの視点からの再検討」では、まだ日本では馴染みが薄いステップファミリーを通して、家族の形をあらためて考えることが虐待予防につながるといったお話をいただきました。主催者としても、これからの日本に必要とされる新たな視点について明確にご提示いただいたと感じております。また、お気軽相談コーナーには数名の方にいらしていただき、現場での困りごとについてエキスパートの先生方と様々なお話をすることで有益な情報を持ち帰っていただけたかと思っております。

まだ、なかなか臨床現場から離れることが難しい方がいる状況で恐縮ではありますが、4年ぶりに皆様に直接お会いし、生の声が聴けて、向き合って語り合うことの大切さをあらためて感じる事ができた時間だったように思います。今回はさらに多くの方とお会いできることを祈念しております。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

第19回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会

Japanese Society of Perinatal Mental Health
テーマ 多職種で支える周産期リエゾンのパトーン ～皆の“育つ”“生きる”を支える～
2023年10月28日（土）～29日（日） 一橋講堂



次回開催(第20回学術集会)

少子化時代の周産期メンタルヘルス
～一人ひとりを大切に診る

大会長・牧野真太郎

（順天堂大学医学部附属浦安病院産婦人科教授）

2024年10月26/27日

TFTホール西館2F（東京都江東区）



お知らせ

北村メンタルヘルス学術振興財団が研究助成を開始します！

当財団は、メンタルヘルスを、文化・倫理・法体系・家族関係・人間関係という視点から捕らえ、この領域の若手研究者・若手臨床家における学問の進展、ならびに技術の向上に資する、様々な活動を展開する目的で設立いたしました。この趣旨のもと、研究助成を行います。日々の臨床からでてきた疑問に答える研究テーマ、だれも気が付かなかった着眼点や発想に基づく研究テーマ、メンタルヘルスケアの方向性を大きく変えるパラダイムシフトに寄与する研究テーマを歓迎します。

給付対象は若手研究者です。ですが、年齢制限はありません。ここで「若手」というのは、この領域におけるニューカマーです。当財団は、競争的資金への応募は無理だが、ぜひ臨床研究について研鑽したい（「研究アイデア・計画作成助成」）、温めている研究計画を実行したい（「研究助成」）、手元にある解析結果を国際誌に発表したい（「発表助成」）場合に、ぜひご利用いただきたいと考えます。上限1件 150 万円とし、年間総額 500 万円の範囲で採択件数を決定します。申請はグーグルドライブからお願いします。

2023年度の募集締め切り：2023年12月25日

助成・援助金給付規程はホームページをご覧ください（<https://www.kitamura-foundation.org/study.html>）

企画・発行：日本周産期メンタルヘルス学会 情報関連委員会

当学会では会員の皆様にとって有用な情報をニュースレターで取り上げていきます。
ご意見やご要望がありましたら事務局までお知らせください。